

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202478		
法人名	有限会社 やなぎはら		
事業所名	グループホーム 菜の花の家		
所在地	長崎県佐世保市三川内本町308-6		
自己評価作成日	令和6年8月30日	評価結果市町村受理日	令和6年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは「明るく・のびのびと・あるがままに」を施設理念に、入居者様にはもちろん、ご家族様にも安心して頂けるよう各職員に様々な勉強会を設け、スキル向上を目指し一丸となって取り組んでいます。また、職員不足の中、入居者様と楽しむ生活が送れるように対しストレスケアを行い、常に目配りができるように対応しています。ホームの造りも木造平屋造りで木材や漆喰にもこだわりをもち、消臭効果やウイルスなどによる感染症蔓延防止の効果があり、天井高く天窓もついているため、日光が注ぎ広々とした空間を提供できる造りとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員それぞれが日々の支援の中での気づきや思いについて職員間で意見交換し、また、ベテラン職員は新人職員に対し親身に助言するなど職員同士の風通しが良く、向上心を持ち、明るい雰囲気の中でホームの理念に沿った支援に努めている。ホームは交通の利便性がよい場所にあり、家族や友人・知人にとって立ち寄りやすい。広々とした敷地内にある木造平屋建てのホームは、天井が高く、天窓も多数あり、開放感に溢れた明るいホームとなっている。駐車場を広く整備し、近隣小学校の登下校時の集合場所として開放する等、地域に根ざしたホームとなっている。医療面においても提携医の訪問診療や訪問看護事業所と連携して入居者の健康管理が行われており、入居者・家族にとって安心感のあるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき事務所内にパンフレットを準備し、毎月のホーム会議を行い、会議の議題にも理念を入れ職員は理念共有が出来ている。	理念に基づき事務所内にパンフレットを準備し、毎月のホーム会議を行い、会議の議題にも理念を入れ職員は理念共有が出来ている。	設立時に掲げた理念について3年前に見直すことを検討し、職員で話し合いを重ね、職員の想いを込めて現理念を策定した。現在は職員個々が目標を掲げ、それを纏めたものをユニットの年間目標とし実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(町内清掃)の参加や回覧板での情報収集、運営推進会議にて地域の声を聞きとり、交流が途絶えないよう行っている。	地域の行事(町内清掃)の参加や回覧板での情報収集、運営推進会議にて地域の声を聞きとり、交流が途絶えないよう行っている。	コロナ禍前は中高生による体験学習の受入れを行っていたが、現在は中断している。尺八の演奏会を開催したり、子ども110番の登録や、駐車場を小学校登下校時の待機場所として開放したり、駐車場上部に時計を設置する等、地域の要望に応え、地域に根ざしたホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護研修に参加し、ホームでの内容等報告をさせて頂いている。	地域の介護研修に参加し、ホームでの内容等報告をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回(年6回)実施しており、入居者様の情報、行事報告をその都度伝えている。また、他のGH運営推進会議にも参加し意見交換を行っている。	二カ月に一回(年6回)実施しており、入居者様の情報、行事報告をその都度伝えている。また、他のGH運営推進会議にも参加し意見交換を行っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員、近隣住民、家族代表、ホーム職員が参加している。会議の際はホーム内を見学してもらうほか、危険予知の観点からアドバイスを受け改善を行ったり、外部評価の受審について説明し、サービス向上に活かしている。家族にも議事録を郵送している。	運営推進会議議事録の記載について、家族や第三者が閲覧した際に、会議における質疑・意見・対応等の経緯が分かりやすく伝わるよう議事録の記載を工夫することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からのアンケートや連絡を受け、協力関係に取り組んでいる。また、生活扶助の対象者の定期的な訪問もある。	市町村からのアンケートや連絡を受け、協力関係に取り組んでいる。また、生活扶助の対象者の定期的な訪問もある。	現在、市の担当部署とメールを使用しているやりとりを基本に連絡をとり、相談等についても急を要する場合以外は、出向く機会は少ない。マスク、ガウン、検査キットは現在も提供を受ける等、適宜行政と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて3~4か月に1回定期的に会議を行っている。また、会議で話し合った事をホーム会で伝えたり勉強会を設け職員に周知と知識向上に取り組んでいる。また前回指摘を頂いた期限欄の記入やケアプランに乗せ見直しができるようにしている。	身体拘束委員会にて3~4か月に1回定期的に会議を行っている。また、会議で話し合った事をホーム会で伝えたり勉強会を設け職員に周知と知識向上に取り組んでいる。	身体拘束委員会のメンバーとして職員4名を選任し、ローテーションを組んで参加できるようにしている。身体拘束に関し、虐待防止を含め定期的に勉強会を行っている。職員間の人間関係を考慮し、言葉づかいや対応等で気づきを直接言いにくい場合を想定し、職員意見箱の設置やLINEの活用を現在検討している。	運営規程はホームの基本的かつ重要な事項を内外に示すものであることから、規定として定めておくことが必要な事項として虐待防止に関する事項、身体拘束に関する事項を明記し取り組むことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3~4か月に1回定期的に行っている。ホーム会で報告や勉強会を開き知識向上に努めている。また、新人職員には必ず入社日に教育し、言葉の使い方等を中心に気を付けるよう伝えている。	虐待防止委員会を3~4か月に1回定期的に行っている。ホーム会で報告や勉強会を開き知識向上に努めている。また、新人職員には必ず入社日に教育し、言葉の使い方等を中心に気を付けるよう伝えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は必ず勉強会を行っている。現在ははないが以前は成年後見制度を利用した事もあり今後も活用していきたいと考えている。	年に1回は必ず勉強会を行っている。現在ははないが以前は成年後見制度を利用した事もあり今後も活用していきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約などは必ず書面を準備し口頭で説明後、承認されたら署名、捺印をお願いしている。また、改定後がある時にも書面での説明、同意を頂くようにしている。	契約の締結、解約などは必ず書面を準備し口頭で説明後、承認されたら署名、捺印をお願いしている。また、改定後がある時にも書面での説明、同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様にはケアプラン作成時に意向を聞き、ご家族様には電話にて意見を聞き取るようにしている。また、運営推進会議では参加者からの質疑応答などの意見も伺うよう時間を設けている。	利用者様にはケアプラン作成時に意向を聞き、ご家族様には電話にて意見を聞き取るようにしている。また、運営推進会議では参加者からの質疑応答などの意見も伺うよう時間を設けている。	入居者、家族からの意見や要望は管理者が聴き取ることが多い。管理者が不在の場合は職員が聴き取り、LINEを活用して必要な情報を知らせている。入居者に意向を確認し、毎月の職員会議に諮り、介護計画の作成に必要な情報を話し合っている。	外部評価結果は運営推進会議において出席者へ説明している。今後、重要事項説明書に記載している外部評価の実施状況について、遠方にいる家族等を考慮し、「評価結果の開示状況」に関し、「ワムネット」においても閲覧が可能であることから、追記することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会にて職員の意見などを聞き取れるよう参加者に一度は発言出来るよう会議を進めている。以前は個人面談を行っていたが現在は個人面談はやっていない代わりに勤務時間外でも相談や聞き取り出来るようLINEでのやり取りを進めている。	毎月のホーム会にて職員の意見などを聞き取れるよう参加者に一度は発言出来るよう会議を進めている。以前は個人面談を行っていたが現在は個人面談はやっていない代わりに勤務時間外でも相談や聞き取り出来るようLINEでのやり取りを進めている。	毎月開催する職員会議及びLINEを活用し職員間で意見交換している。勤務時間外でも相談ができるよう体制づくりに取り組んでいる。食品ロスが多く発生したケースでは、対策を話し合い、献立内容を工夫する等、取り組んでいる。ハラスメント対策について、現在、全般的な改訂・見直しを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当ホームの勤続年数や仕事内容で職員の能力や貢献に応じた処遇を行い向上している。また、職員と話し合い就業時間の変更や休憩時間を見つめ直し働きやすい環境作りに努めている。	当ホームの勤続年数や仕事内容で職員の能力や貢献に応じた処遇を行い向上している。また、職員と話し合い就業時間の変更や休憩時間を見つめ直し働きやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や能力に関係なく意欲に応じて研修へ参加して頂いている。研修もコロナの時期に比べ増えてきており、施設内研修、外部研修参加するよう促している。	経験年数や能力に関係なく意欲に応じて研修へ参加して頂いている。研修もコロナの時期に比べ増えてきており、施設内研修、外部研修参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地区のグループホームと連絡を取り合っており、会議等にも参加している。現状報告や情報の共有もあり行為流を継続している。	東部地区のグループホームと連絡を取り合っており、会議等にも参加している。現状報告や情報の共有もあり行為流を継続している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前は必ず個人面談にて意向を伺い、他のサービスや事業利用の場合は、関連機関により情報収集に努め、入居一か月後には再度ご意向を本人様へ伺い介護計画作成を行っている。	入居される前は必ず個人面談にて意向を伺い、他のサービスや事業利用の場合は、関連機関により情報収集に努め、入居一か月後には再度ご意向を本人様へ伺い介護計画作成を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の個人面談後にご家族様から困っている事や悩み、意向を聞いている。入居後にもご家族様には随時連絡をとり関係作りに努めている。	入居前の個人面談後にご家族様から困っている事や悩み、意向を聞いている。入居後にもご家族様には随時連絡をとり関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望や他の事業所から紹介があった際、必ずホームに一度見学に来て頂きホームの概要や指針を説明している。また、その時に入居予定者の現状や状況に合わせた多のサービス利用や支援の方法などアドバイスをを行っている。	入居希望や他の事業所から紹介があった際、必ずホームに一度見学に来て頂きホームの概要や指針を説明している。また、その時に入居予定者の現状や状況に合わせた多のサービス利用や支援の方法などアドバイスをを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のADLやBPSD、体調や気分に合わせて、家事手伝いやその他の活動を協力して頂けるよう声かけを行っている。	本人様のADLやBPSD、体調や気分に合わせて、家事手伝いやその他の活動を協力して頂けるよう声かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の誕生日や行事等参加が難しくなった事から電話や写真送付等行っている。また、日常生活での変化等があった場合でも連絡し関係作りに努めている。	本人様の誕生日や行事等参加が難しくなった事から電話や写真送付等行っている。また、日常生活での変化等があった場合でも連絡し関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の外出や面会に制限はなくご家族様や知人の方との関係が途切れないよう努めている。また、外泊も制限していないためご家族様や利用者本人も喜ばれている声が多く上がっている。	本人様の外出や面会に制限はなくご家族様や知人の方との関係が途切れないよう努めている。また、外泊も制限していないためご家族様や利用者本人も喜ばれている声が多く上がっている。	入居者のこれまでの情報(関係先・人・物等)は、本人や家族から聴取している。困難な場合は、本人の日頃の様子を観察し、職員間で話し合い判断している。本人より自宅に帰りたいとの希望があり、家族と連携し車椅子を貸し出して外泊できるよう支援するなど取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活スペースでは座席配置やくつろぐ場所など各個人の希望に合わせて対応しており、食事時間やお茶の時間として毎日5回は全入居者様が集まる機会を設けている。	共同生活スペースでは座席配置やくつろぐ場所など各個人の希望に合わせて対応しており、食事時間やお茶の時間として毎日5回は全入居者様が集まる機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者やご家族様には、電話やLINEでのやりとりを行っており相談・援助を続けている。また、関係性が続いているおかげもあり以前入居していたご家族様の知人が入居等もあった。	退居された利用者やご家族様には、電話やLINEでのやりとりを行っており相談・援助を続けている。また、関係性が続いているおかげもあり以前入居していたご家族様の知人が入居等もあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア会議を行う際は、事前に本人様やご家族様の意向、希望を伺うようにしており、健康等に関わらない限り毎日の日常生活上の判断も出来るだけ本人様に任せている。	ケア会議を行う際は、事前に本人様やご家族様の意向、希望を伺うようにしており、健康等に関わらない限り毎日の日常生活上の判断も出来るだけ本人様に任せている。	入居者、家族の思いを聴き取った職員が記録に残して施設長に伝達し、施設長はその内容により職員全員で共有が必要と判断した場合はLINEを活用し伝えている。意思表示が難しい入居者の思いは、職員が言葉かけ時の反応や表情により汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や利用されている事業所から情報収集し、本人様に関する情報提供をお願いしている。その情報を基本として個人の記録ファイルへ全職員が閲覧できるようにしている。	入居前にご家族様や利用されている事業所から情報収集し、本人様に関する情報提供をお願いしている。その情報を基本として個人の記録ファイルへ全職員が閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事・排泄・入浴・バイタルを記録しており、記録の内容に合わせて対応している。また、九時に特変や状態変化の方がいたら報告するよう義務付けしている。	毎日の食事・排泄・入浴・バイタルを記録しており、記録の内容に合わせて対応している。また、九時に特変や状態変化の方がいたら報告するよう義務付けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を行う際は、事前に本人様やご家族様の意向、希望を伺うようにしている。その他に本人様に関する専門職の方からも情報を得るようにしている。その情報により各職員の意見やホームの理念に沿った対応が出来るか話し合っている。	ケア会議を行う際は、事前に本人様やご家族様の意向、希望を伺うようにしている。その他に本人様に関する専門職の方からも情報を得るようにしている。その情報により各職員の意見やホームの理念に沿った対応が出来るか話し合っている。	介護計画の作成を計画作成責任者が担当し、6ヶ月毎に見直しを基本に行っている。事前に家族の意向、主治医、訪問看護師の助言を受け、職員会議の中で意見交換を行い作成している。介護計画のサービス内容を実施記録に添付し職員それぞれが計画内容を確認して日々の支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には、介護計画に沿ったものや関連するものは青ペンで記入し、実施状況を毎日○・×・◇で記録に残している。二カ月に一度計画評価を行い、ケア会議に活かされている。	個別の介護記録には、介護計画に沿ったものや関連するものは青ペンで記入し、実施状況を毎日○・×・◇で記録に残している。二カ月に一度計画評価を行い、ケア会議に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具の紹介、代理購入、入退院時の付き添いや手続き代行、洗濯物交換、提携以外の受診付き添い送迎等ご家族様や本人様の状態、意向に合わせて対応している。	福祉用具の紹介、代理購入、入退院時の付き添いや手続き代行、洗濯物交換、提携以外の受診付き添い送迎等ご家族様や本人様の状態、意向に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二カ月に一度、訪問美容を利用し入居者様の希望に沿った散髪を行って頂いている。提携病院には定期的な往診をお願いし受診している。また、小中学生の通学路でもあり、子供100当番にも登録している。	二カ月に一度、訪問美容を利用し入居者様の希望に沿った散髪を行って頂いている。提携病院には定期的な往診をお願いし受診している。また、小中学生の通学路でもあり、子供100当番にも登録している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時よりかかりつけの病院選択は自由にして頂けるようご家族様へお伝えしている。送迎を実施し、病状に合わせ紹介状をお願いし、専門機関の送迎受診を行っている。	入居契約時よりかかりつけの病院選択は自由にして頂けるようご家族様へお伝えしている。送迎を実施し、病状に合わせ紹介状をお願いし、専門機関の送迎受診を行っている。	入居以前からのかかりつけ医の受診を希望する場合は、遠隔地の医療機関以外は職員が同行している。提携医より2週間に1回、訪問診療、歯科からは適宜往診、訪問看護事業所から毎週1回訪問がある。皮膚科、眼科等専門医の受診には職員が同行している。緊急搬送の場合に備え、入居者個々の医療情報等を記録した書類を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回訪問看護の方へ来て頂き、入居者様の状況や体調の変化を伝えアドバイスや対応をお願いしている。また、看護資格を持つ職員が2名在籍している。	週に一回訪問看護の方へ来て頂き、入居者様の状況や体調の変化を伝えアドバイスや対応をお願いしている。また、看護資格を持つ職員が2名在籍している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際、送迎や入院準備、経過情報、退院時の対応など行い、その都度Drやご家族様から情報を共有し関係作りに努めている。	入院の際、送迎や入院準備、経過情報、退院時の対応など行い、その都度Drやご家族様から情報を共有し関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、必ず重度化に対する指針を口頭で説明し同意をご家族様から頂いている。ホームで看取りを行う時には、ご家族様、医療関係の方と話し合いを設け、当ホームで看取り対応が出来る状態を職員と話し合いを行っている。	入居の際、必ず重度化に対する指針を口頭で説明し同意をご家族様から頂いている。ホームで看取りを行う時には、ご家族様、医療関係の方と話し合いを設け、当ホームで看取り対応が出来る状態を職員と話し合いを行っている。	看取り指針を作成し、入居時に家族に説明している。ホームで看取り支援が可能なケースの場合、主治医、訪問看護事業所と連携し、職員とも話し合いの上支援している。家族が医療行為を希望した場合は、退所後の受入れ先を検討し、円滑に移行できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議内で年に最低1回は急変・事故の勉強会を行っている。両ユニットに急変時マニュアルを掲示し急変が起きた場合、緊急会議を行っている。	ホーム会議内で年に最低1回は急変・事故の勉強会を行っている。両ユニットに急変時マニュアルを掲示し急変が起きた場合、緊急会議を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年6～7回は火災、水害、地震時の避難訓練を行っており、地域の方や消防署、警察の方にも訓練参加して頂いている。また、月に1回は設備点検と毎日のホーム点検を行い、火災が起きないように努めている。災害での避難場所についてはご家族様へお伝えしている。	年6～7回は火災、水害、地震時の避難訓練を行っており、地域の方や消防署、警察の方にも訓練参加して頂いている。また、月に1回は設備点検と毎日のホーム点検を行い、火災が起きないように努めている。災害での避難場所についてはご家族様へお伝えしている。	入居者、職員が参加して定期的に避難訓練を行なっている。自然災害対応の訓練も実施しており、緊急対応マニュアルを作成し、職員に対し緊急時の役割を周知されている。緊急時における近隣住民との協力体制につき、運営推進会議を通じて相談している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護と接遇について年に1回ホーム会議内の勉強会を行っている。また、新人職員には必ず説明・勉強会を開いている。職員には言葉かけ等お互いが気を付け注意できる環境作りに努めている。	プライバシー保護と接遇について年に1回ホーム会議内の勉強会を行っている。また、新人職員には必ず説明・勉強会を開いている。職員には言葉かけ等お互いが気を付け注意できる環境作りに努めている。	接遇マナーに関し、職員が外部研修を受講し、その後、受講した職員が職員会議でその内容を伝達し共有している。排泄失敗時など、職員はさりげなく声かけし、居室や浴室へ誘導し、羞恥心に配慮した支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護計画作成時に本人様やご家族様の意向を伺い、支障がない程度働きかけている。	介護計画作成時に本人様やご家族様の意向を伺い、支障がない程度働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望に合わせ、一日をどのように過ごして頂けるか定期的に職員が話し合いを行っている。昼からの入浴や夜間眠れない方等本人様に寄り添った支援を心掛けている。	入居者様の希望に合わせ、一日をどのように過ごして頂けるか定期的に職員が話し合いを行っている。昼からの入浴や夜間眠れない方等本人様に寄り添った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面・整容を整え、難しい方には支援を行っている。また、入浴後には爪等を確認し衛生面にも気掛けている。	起床時に洗面・整容を整え、難しい方には支援を行っている。また、入浴後には爪等を確認し衛生面にも気掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食は宅食を利用しており、利用者にあった食事提供(刻み食やミキサー食)している。利用者様が希望のある食事を聞き取り、毎月15日に提供するように決めている。また、入居者様にはコップ拭きや食器洗い等活動を減らさないよう対応している。	昼・夕食は宅食を利用しており、利用者にあった食事提供(刻み食やミキサー食)している。利用者様が希望のある食事を聞き取り、毎月15日に提供するように決めている。また、入居者様にはコップ拭きや食器洗い等活動を減らさないよう対応している。	朝食は職員が交替で調理し、それ以外の食事は外部の配食業者に依頼している。嗜好、アレルギーについては業者の対応が困難であり、ホームで代替食を提供している。毎月15日に希望食の日を設け、希望するメニューの昼食を提供し、誕生日と併せ職員が調理を担当している。入居者の嚥下状態にあわせて食事形態を刻み食やミキサー食等に加工し提供している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録に残し本人様の状態を職員がいつでも確認できるようにしている。	食事摂取量、水分量を記録に残し本人様の状態を職員がいつでも確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、状態によって歯科受診やスポンジ歯ブラシ、ガーゼ等の要具変更し対応している。また、歯科の先生から月に1回は助言を頂き指導して頂いている。	毎食後口腔ケアを行い、状態によって歯科受診やスポンジ歯ブラシ、ガーゼ等の要具変更し対応している。また、歯科の先生から月に1回は助言を頂き指導して頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状態に合わせて、日中の布パンツ等使い分けている。また、必要な方には排泄チェック表を記入し、排泄パターンの把握や長期の汚染状態にならないよう対応している。	入居者様の状態に合わせて、日中の布パンツ等使い分けている。また、必要な方には排泄チェック表を記入し、排泄パターンの把握や長期の汚染状態にならないよう対応している。	排泄チェック表はプライバシーの観点から必要な入居者のみ使用している。夜間帯の見回りは入居者の排泄リズムに合わせて個別に対応している。適切なパッド、オムツ類の使用について定期的に職員間で話し合っている。日中は排泄の自立支援に向け声掛けを行い、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便座の高さ調整や腹圧、腹部マッサージ等対応している。本人様によっては下剤を使用しているが必ず往診時にDrに状態報告を行っている。	便座の高さ調整や腹圧、腹部マッサージ等対応している。本人様によっては下剤を使用しているが必ず往診時にDrに状態報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3人入浴をして頂き、なるべく本人様が入浴をしたい時間に合わせている。また、1人対応が危険な方には2名対応しているが、見守り等羞恥心が傷つけないよう心掛けている。	1日3人入浴をして頂き、なるべく本人様が入浴をしたい時間に合わせている。また、1人対応が危険な方には2名対応しているが、見守り等羞恥心が傷つけないよう心掛けている。	週2回の入浴支援を基本としているが、本人の希望により、入浴は日曜日以外可能である。入浴チェック表をホワイトボードに掲示し、その日の入浴状況を確認している。入浴拒否がある方や、入浴順を拘る方については臨機応変に対応している。脱衣所に電化製品を置いて事前に温めヒートショックに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせ、その都度居室内に休んで頂いている。また、夜間休めない方には無理せずフロアでテレビ視聴して頂く等、眠剤薬が必要な方にはご家族様やDrと話し合い服用している。	入居者様の状態に合わせ、その都度居室内に休んで頂いている。また、夜間休めない方には無理せずフロアでテレビ視聴して頂く等、眠剤薬が必要な方にはご家族様やDrと話し合い服用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を個人記録に挟め、職員はいつでも回覧できるようにしている。また、薬の変更の際は必ず職員の伝達ノートへ記入し把握できるよう体制を整えている。	薬剤情報提供書を個人記録に挟め、職員はいつでも回覧できるようにしている。また、薬の変更の際は必ず職員の伝達ノートへ記入し把握できるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のADLに合わせ役割を作りADLの低下を防いでいる。また、嗜好品などのご家族様の相談のもとで購入し、天気によっては職員と買い物など行き気分転換ができるよう支援している。	入居者様のADLに合わせ役割を作りADLの低下を防いでいる。また、嗜好品などのご家族様の相談のもとで購入し、天気によっては職員と買い物など行き気分転換ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は玄関を開放しており、ホーム敷地内であれば自由に出入り出来るようにしている。また、転倒等の事故がないようその都度見守り付き添いを行っている。	日中は玄関を開放しており、ホーム敷地内であれば自由に出入り出来るようにしている。また、転倒等の事故がないようその都度見守り付き添いを行っている。	ホームの駐車場は広く、好天時には入居者が日向ぼっこするなど楽しまれている。ホーム周辺の散策や、個別支援で受診の帰りに本人の思い出の場所を経由する等支援している。ホーム行事として、市中の公園に花見見物に出かける等、適宜、外出する機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の許可のもと本人様の希望があれば自信で管理されている。ホームで預かっている方には希望時にいつでも購入できるよう管理している。	ご家族様の許可のもと本人様の希望があれば自信で管理されている。ホームで預かっている方には希望時にいつでも購入できるよう管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にはいつでも電話をして良い事を入居時に説明しやり取りが途絶えないよう対応している。また、手紙の郵送や本人様から電話をかけた時にも対応し利用者様の希望に添えるよう行っている。	ご家族様にはいつでも電話をして良い事を入居時に説明しやり取りが途絶えないよう対応している。また、手紙の郵送や本人様から電話をかけた時にも対応し利用者様の希望に添えるよう行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温・湿度は毎日記録に残し、状況に応じて過ごしやすい環境作りに努めている。また、トイレ等には羞恥心が傷つかないようカーテンのの取付等工夫している。	気温・湿度は毎日記録に残し、状況に応じて過ごしやすい環境作りに努めている。また、トイレ等には羞恥心が傷つかないようカーテンのの取付等工夫している。	共用空間である玄関・居室・廊下等の掃除や、トイレ掃除、消毒液を使用した手すりやテーブル等の拭き掃除もこまめに行われており、清潔保持がなされている。壁面には入居者と職員が共に作成した作品が掲示されている。天井が高く、天窓も多数あり、開放感に溢れた明るいホームとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 花ユニット)	実践状況(ユニット名: 森ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースを使用される場合は本人様の希望や過ごし慣れた場所を使用してもらい、食事の座席では入居者様同士の相性も踏まえて楽しめるよう工夫している。	共有スペースを使用される場合は本人様の希望や過ごし慣れた場所を使用してもらい、食事の座席では入居者様同士の相性も踏まえて楽しめるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族様にお願いし本人様の馴染みあるものを持ってきて頂き、少しでもホームに慣れ居心地良く過ごせる環境作りに努めている。	入居の際、ご家族様にお願いし本人様の馴染みあるものを持ってきて頂き、少しでもホームに慣れ居心地良く過ごせる環境作りに努めている。	居室は本人の馴染みの品、使い慣れた備品等が持込まれ、入居者が居心地よく暮らせるよう支援している。居室毎の担当職員が家族との連絡及び定期的に埃などのチェックを行っている。火気類・刃物類は居室への持込が不可の為、契約書にもその旨記載し入居時に説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様の状態に合わせてポータブルトイレや、手すり、ベットなど生活しやすく安全な環境作りに努めている。	本人様の状態に合わせてポータブルトイレや、手すり、ベットなど生活しやすく安全な環境作りに努めている。		